

第4回 第3期中海自然再生協議会議事録

記

日時 平成23年12月10日(土) 13:00~16:00

場所 鳥取県西部総合事務所(米子)

前回に引き続き、西部総合事務所で開催された。広島大山本民次先生の話題提供の後、議事を行い、中海自然再生実施計画についての討議がなされた。次回の協議会は1月28日(土)13時~16時、島根県庁会議棟で行うことになった。

話題提供(13時~14時)

「里海創生と具体化の技術」

広島大学大学院生物圏科学研究科教授 山本民次先生

(内容) 里山概念と同じように「里海」が再生・創生できるかという点、沿岸の海には障害となる多くの問題がある。主要な問題点について議論するとともに、「里海創生」をメンタルなものから具体化するのに必要な最新の技術について紹介する。

沿岸域の環境保全についての各省庁の施策や考え方が紹介され、沿岸域の利用と管理の問題点、漁業特区の話題、環境収容力など、中海再生に役立つ話題が一杯でした。また、瀬戸内海で先生が実践されている石炭灰造粒物(Hi-ビーズ)を使った環境修復では硫化水素の吸着と効果の継続についての検証など、中海の浅場造成や窪地修復の問題にも直接関わる貴重なデータが紹介されました。なお、講演の録音および資料、多くの著書については事務局で保存しています。

ついで、中尾会長および熊谷副会長の司会のもとで、環境省自然環境局自然環境計画課の山浦清孝課長補佐および同福島行我調整専門官(NPO法人自然再生センターの環境省からの委託事業の現地視察で来訪)が傍聴参加されていることが紹介され、挨拶を受けた後に議事を行った。

議事

1) 4つの実施計画案についてのその後の検討状況の報告にもとづく討議

國井事務局長から配布された資料(中海自然再生事業「浅場の再生と肥料藻を通じた資源循環の復活に向けた自然再生事業実施計画(案)」(NPO法人自然再生センター、当日配付)についての作成経過が説明され、「はじめに」の部分について読み上げ、説明がなされた。ついで実施計画について、1. 実施者の名称及び実施者の属する協議会、2.

中海自然再生事業の背景と意義、3. 自然再生事業の対象となる区域とその課題、4. 自然再生の目標についての説明が資料にもとづいて説明された（1の実施者としてはNPO法人さきもりネットワークおよびNPO法人中海再生プロジェクトを追加）。ついで、5. 「自然再生事業の内容」については4つの事業について、以下のように世話人会が組織されていることが報告され、それぞれ内容説明があった。

5-1. アマモ場の保全・再生事業（世話人）國井秀伸・奥森隆夫・新井章吾

5-2. 海藻回収及び回収海藻の利用事業（世話人）渡部敏樹・中尾 繁（さきもりネットワークの行っている事業を含めて修正予定）

5-3 砂浜の保全・再生事業（世話人）熊谷昌彦・田守利彦・船越 元熙（今回は田守氏からの口頭報告のみで、文書なし）

5-4. 中海浚渫窪地の環境修復（世話人）桑原智之・相崎守弘・徳岡隆夫・斉藤 直

これらの報告を受けて討論を行った。実施計画としてはまだ修正加筆すべき点があること、中海の透明度が上がり、水環境が好転しているというのは言い過ぎではないか、などの意見があり、会長からは、今回は案として示したものであるので、気のついた点は事務局に寄せてほしいとの発言があった。これを受けて國井事務局長から、環境省からは、生物多様性保全活動支援事業（実証事業）についての要望調書が自然再生センターにきていて、協議会で4つの実証事業を採択してから申請するのがよいと考えているので、各世話人会においては次回の協議会までに検討を行って、採択されるように準備してほしいとの発言があった。

上記を受けて、事務局から次回の協議会を1月28日（土）13時~16時として、松江で開催することが提案され、了承された。

報告

1) 環境省自然環境局による中海自然再生事業地現地調査（12月9~10日）

自然環境局自然環境計画課の山浦清孝課長補佐および同福島行我調整専門官が来訪され、協議会にも呼びかけを行った上で現地調査および意見交換会を行ったことが報告された。（16:20 終了）

（以上）